

講義名	マクロ経済学			授業形態	
担当教員	竹内 信行	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

マクロ経済学は、多種多様な経済活動を例え「日本経済」というような国単位の大枠で捉え、「景気の良し悪しはどう決まる?」、「自給政策の有効性は?」といった問題について考える学問です。そのため、マクロ経済学を学習することは新聞等で取り上げられる経済事情や経済政策を正しく理解する手助けになります。本講義では、そうしたマクロ経済学の第一歩としてマクロ経済学の基本的な考え方の習得を目指します。また、実際のデータやニュースの話題を適宜、取り上げ、日々の経済ニュースや日本経済の現状、その歴史について理解が深まるよう工夫していきます。取り扱う内容には複雑で難解な面もありますが、丁寧な解説を心がけ、楽しく学んでいけることを目標にします。くわえて公務員試験受験を考えている学生に対し、経済系科目学習のスタートアップを提供することも目標の1つとします。

到達目標

マクロ経済学の基本的な知識を習得し、以下の諸点ができるようになることを目指します

- (1) マクロ経済学的なものの見方を身につける
- (2) GDP や物価指数といったマクロ経済指標が何であるかを説明できるようにする
- (3) マクロ経済学で考える 4 つの市場とそのつながりについて理解する
- (4) マクロ経済学における長期と短期の違いを理解する
- (5) 経済政策の必要性と、財政政策、金融政策の役割についてそれぞれ説明できるようにする

提出課題

原則、毎講義後に

- ・学習内容に関する確認問題
- ・講義で学んだことや感想・質問に関する自由記述

の 2 種類の課題を出題します(クリッカー もしくは 小レポートとして実施する予定です)

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

毎回課される課題のでき具合や回収した感想・質問は、講義内で講評したり授業計画の修正の参考にしたりします。また、課題として出題した確認問題に関してはその解答を公開します。

評価の基準

- ・定期試験: 60 %
- ・平常点: 40 % (毎回の課題の提出状況や、その取り組み具合などで評価)

履修にあたっての注意・助言他

- ・「バツと聞いて分かる」というよりは「じっくり考えてから分かる」ことが多い学問です。そのため、講義内容の理解には「根気」と「努力」が必要になります
- ・講義の内容上、数式や図表を用いることがあります。それにともなって必要となる数学については適宜、説明を行います
- ・毎回の講義は、それまでに扱った内容を土台にして進んでいきます。そのため、途中で分からなくなると、その後の講義内容の理解が難しくなります。恥ずかしがらずに積極的に質問をし、疑問点は早めに解消していきましょう

教科書

.使用しない。

参考図書

.マクロ経済学 - 入門の「一歩前」から応用まで [第 3 版].	平口良司, 稲葉大	有斐閣	2640	9784641151116
.入門マクロ経済学 第 6 版.	中谷巖, 下井直毅, 塚田裕昭	日本評論社	3080	9784535557956
.マクロ経済学 第 3 版.	伊藤元重	日本評論社	3300	9784535541078

その他

ハンドアウトを配布するため、教科書は必要ありません。しかしハンドアウトだけでは不安を感じる方は、上記の参考図書の中から自分にあったものを参照してください。

授業計画

第 1 回 マクロ経済学は経済活動をどうとらえるのか? -マクロ経済循環入門-
【自己学習】
・講義内で使用したハンドアウトを用いて学修内容を復習する (2.5 時間程度)
・講義後に課される確認問題に取り組む (1.5 時間程度)
第 2 回 マクロ経済指標の見方 (1) 様々なマクロ経済指標
【自己学習】
・講義内で使用したハンドアウトを用いて学修内容を復習する (1.5 時間程度)
・講義後に課される確認問題に取り組む (1 時間程度)
・前回の確認問題について、解答等を用いて復習を行う (1.5 時間程度)
第 3 回 マクロ経済指標の見方 (2) 様々なマクロ経済指標 (つづき)
【自己学習】
・講義内で使用したハンドアウトを用いて学修内容を復習する (1.5 時間程度)
・講義後に課される確認問題に取り組む (1 時間程度)
・前回の確認問題について、解答等を用いて復習を行う (1.5 時間程度)
第 4 回 マクロ経済指標の見方 (3) GDP とは何か?
【自己学習】
・講義内で使用したハンドアウトを用いて学修内容を復習する (1.5 時間程度)
・講義後に課される確認問題に取り組む (1 時間程度)
・前回の確認問題について、解答等を用いて復習を行う (1.5 時間程度)
第 5 回 マクロ経済指標の見方 (4) 三面等値の原則
【自己学習】
・講義内で使用したハンドアウトを用いて学修内容を復習する (1.5 時間程度)
・講義後に課される確認問題に取り組む (1 時間程度)
・前回の確認問題について、解答等を用いて復習を行う (1.5 時間程度)
第 6 回 マクロ経済指標の見方 (5) 物価に関する指標
【自己学習】
・講義内で使用したハンドアウトを用いて学修内容を復習する (1.5 時間程度)
・講義後に課される確認問題に取り組む (1 時間程度)
・前回の確認問題について、解答等を用いて復習を行う (1.5 時間程度)
第 7 回 マクロ経済指標の見方 (6) 物価指数に関する様々なトピックス
【自己学習】
・講義内で使用したハンドアウトを用いて学修内容を復習する (1.5 時間程度)
・講義後に課される確認問題に取り組む (1 時間程度)
・前回の確認問題について、解答等を用いて復習を行う (1.5 時間程度)
第 8 回 マクロ経済学における「長期」と「短期」

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業での学修は、学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力のうち、「知識を知恵に転換することができる。論理的思考力を持った人材」の養成を目標としたものである。特に、経済学部を学ぶ学生として「社会に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察できるようにする」「世の中の動きを理解し、現代社会の経済問題に関して解決策を考えるための基礎知識を習得する」ことを目指している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

使用した教材や課題の解答等は適宜、キャンパスクロスで公開していきます(動画資料を公開する場合は YouTube を利用する予定です)。講義の復習などに活用してください。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

講義等を通して人から教えてもらっただけでは「分かった気」になってしまい、いざという時に学習した事を活かすことができません。内容をしっかり理解するには「その内容を他の人に説明できるようになる」ことを目指して復習することが大切です。